可笑記評判　一

全拾冊

へ遠 13
1701
1

寛永のころほひ宋君のつき洛陽に寓せしはすなはち
人この書をしるす人ありて余に見せありてつくくて
見仁政の帝基治功の亀鑑なり文武二道の稽古明
達並傳者数化なりとも仮名がきにしてよく文盲の
ともがらをさとらしむるによりわりとしてひろく
りがたくは聖賢の道をしらんことまことにかたきゆゑに
ありとふ余嘲然としてひとへにこれを手にとる
まことに文士の世法よりおもしろき所もあらし村里葉
屋田夫野叟の力をもつて此理をとりわけすその中
にあれとはなはだ大名小名家老又は近侍まで余に
まことに叱里和しめて天下国家の事を賤しくて乃書は
作者のゆゑなりとてそでもしりあつるものなり

へ 13 特
1701
1

繆説をいふ是なるとも是にして非なるとハ非なり申しなしくわらずといへども今昔の代に提て評をくはへ判をなさんとすれバ仁に君子と婦人の仁あり政に一家と天下國郡の政あり和ハ妻子一僕と百姓平等の和あり武ハ一夫の勇と三軍の帥よ[illegible]勇とその外物ごと一概ならずいづれもつゞく文武二道の表裏本末その時代によるべきことわりなれハまゝ少く褒貶すと云尓

可笑記評判巻第一

この書の名を可笑記となふすハいづれ卑下のしわざなりや白楽天が達人ハいはれを楽ふ不達ハまさいうといふ語をとりて達人ハさらにこの書を見てわらふべき事ハ悲て卑下をとてつけりとみえたり其いふ此かなしむる事ハ天下國家をかなしむべき事を云ハ丈夫のあるハひ下まで村里郭屋とらかろき田夫野叟此世にましハれりさ海ひろく文武要路此外をそて仮名がきにしけてよみやすくせり説すきやうよひろかるぞあそんとかぎしてはられる書とやがしより

愚人(ぐにん)いふてうこれをまうけんやうはなくぞしわかる
書記(しよき)のなには卑下(ひげ)の字(じ)をとくふ所はされうの
実語(じつご)も徴(ちよう)せぶらかなのほど異国(いこく)をしまず
卵(らん)は仮名(かな)がきにて書物(しよもつ)かくわうその作者(さくしや)代人(だいにん)
を徴(ちよう)してわかりやうに卑下(ひげ)の字(じ)を作(つく)
名をつけてあかしはしわろひは根本(こんぽん)一世(せい)残物(のこりもの)は
女訓抄(ぢよくんせう)なんどして人のなりちかのみちをしらせ
をしてうつ書物(しよもつ)さるは卑下(ひげ)の字(じ)をとくら便(びん)
近代(きんだい)こそ新作(しんさく)の書(しよ)にてかしき題号(だいがう)あり
ものゆかしくみえされは凡(およそ)人見る人まれもとめ
かむくされはくその理(り)を徴(ちよう)せぶらはず、あるひは
第一(だいいち)愚(ぐ)聖(せい)のかくりことごとく愚(ぐ)にて此書(しよ)を作(つく)りしをす

むかしさぶらふ人のいひけるは、永禄(えいろく)つらのころ此巳(み)のくし
東(えんしやう)のかたまでありしにそぞろ卑下(ひげ)わかりれしさ
みな人わかしにも其ありしを見(み)ぬところあかしるる
ありし此博士(はかせ)勘文(かんもん)とりつくりて書ければ、わが綱(てつ)
文字(もんじ)の正理(しやうり)めつきかくまでつづりし此里(さと)ありされ
むかしはしそくそうしき字(じ)自今(じこん)以後(いご)さだまりしより
はなべての人は侍(さぶらひ)の類(るい)にて次第(しだい)よまちかくして累(るい)
代(だい)の類(るい)をとりもしかりては仁義(じんぎ)礼(れい)をわかせまく深(ふか)
わかしく人は無芸(むげい)無能(むのう)にて利発(りはつ)利口(りこう)をこのむ
また欲(よく)ふかく利(り)を得(え)むとのいはしかるにしもての
ことにてあそびきらかりしにほかなはぬやの孔子(こうし)
風俗(ふうぞく)をまもりつつしまの延喜(えんぎ)式(しき)中(ちう)とまうしは御(ご)

をさめで[illegible]にあがれてもやしき下子(げす)どもととりあへて[illegible]とむらひあづめる大[illegible][illegible]にのづりそれ情(なさけ)とうけあまの国く[illegible]くそうして悪逆(あくぎやく)ぶだうみだりがはしきを無[illegible]ひさしくさんとものけまし神[illegible]と[illegible]わりめに佛(ぶつ)はとりやしきあかしよりくらづ不慈悲(ふじひ)不義理(ふぎり)の不知恵(ふちゑ)ならば時節(じせつ)とうぐひ[illegible]邪悪(じやあく)の宗旨(しうし)ざんまん表裏(へうり)此[illegible]よく人のもんじやうをぐしいふしとゆゑうつをじよくへうまうりなれしきうふあがそふくさうきんしたかく[illegible]痛して文字(もんじ)のわやまりうちひとそらずすこの愚書(ぐしよ)を綴(つゞる)

て余(よ)がせがれはわるくある見識は遼東(りやうとう)の豕(いのこ)なりとも他見の人は文字(もんじ)の活用なくて佛学(ぶつがく)儒者(じゆしや)がいふさかしらの活用あるぞ公家(くげ)連歌師(れんがし)のつくへは弱ね某(それがし)は全(まつた)く知らず只恨らくは文言(ぶんげん)つたなく艶筆(えんひつ)よからぬことをおもふ内(うち)あけの書(しよ)よりも章段(しやうだん)のちがひは不措編(さうへん)すべてわりともそれは彼(か)の遺恨(いこん)はわかれ他事(たじ)不慮(ふりよ)の[illegible]口のそれははわかきはもろよ[illegible]こう歟評判とよりそ書籍(しよじやく)を述作(じゆつさく)とせなはみなその感ぎはしよりありしによりつくゆゑなはとらへりされど神農(しんのう)八卦(はつけ)を画(ゑが)きものしは河図洛書(らくしよ)となるまつ所せかゝり孔子(こうし)の春秋(しゆんじう)をつくりものしこそ麒麟(きりん)のとらはれしを感(かん)じものしにしとありみ

いきどほりをもつてかけりといふは西伯は羑里にとらはれて周易をのべ屈原は汨羅にながされて離騒をつくり左丘はまなこつぶれてのち国語をつくり不韋は蜀にうつされしとき呂覧をつくり韓非は秦にとらはれて説難をつくり孤憤あり今の可笑記は英蔵主の物しりがほにつくりて書きけるよしみえたりこのゆゑにいはれて文武の要を治めのうちにすゝめし暦書ありされども永禄二年よりこのかたは年記録にみえずながき年の天変などは年代記にもしるさぬの次でしをではに年代記にまなしまるせ星のみえたるをもあるべきなれば他国の天変をかつてまもあるべし

例せば日月の蝕するも漢朝の暦数にあはざることも暦うのをたがへこれを他方の蝕となづく天下ひろくして国はひろく八方にこそかはり唐国の天変の漢朝にうつりきたりとても更ずされば永禄以来文武二つの滅却とあらはれおぼしずやつよる王道をとりて武家より世がはりしのちもこれ永禄以前朝廷の時よりも年あり文武の二つをあつかへてきさ何となく今天下は年久しく治まりて異国よりは其いまでも寸年此ためなりかこれ漢朝の武蔵さえ聞かずや又文をみす よまざる年京田舎のことしれても

分に遊じて学問をせざりけりのしなし又その実義なきよしれどもされりとふなれば実義此事ハむかしも今もくはしくあらなしハおそらん衣裳男女のさもしみぶきざうさ文なりさ刀なる濫觴そのゆへの遠ひざ何ぞ武なり武士なりしげそ世さし世話世すし濫ぶより代々わらひ侍ずわがれ乱ども一くらふものあり馬と花山の陽わくさんじこる事此とすまりるへば此次よおしくよりはらくさう侍の家しかる事よとろうみ侍とひや永禄よりこのかたすその頃此不肖なる家ハいつもさとみ累世の

禍をとらざらんとする事ハいつもの欲なりさぶらひハ禄を望ざりけるもの事やならんず世上やしなひの事なかるべし天象よみうぐさ子細なし仁義礼ともにまじて須より事もと人ならば大名より侍まで仁義礼をもとめつぶらかなる不覚人ハみな追放せられ也無芸無能なりさる事是程歩行学業のあるまじのがれども此侍に一能一芸ハいつまでもかはりもなくハ連歌俳諧もなく鉄炮をど侍のうちすぐれてつかひもなきものなりよ下々ハさもなきものハらうにんなすもの也そのうち下郎なり仲間ハ田舎くらしにありつか

人みな軍まのはなしをせず猫間が飯に
言葉もつかひなれし書のもじもしらで武勇
ともつく将軍に取り立て藝能いはずとぞ
いへ人無藝無能なりし人今の藝能ある侍より
名のよろしき無功なりしもなし利發利口なり
まなぶりて利欲とものゝふとする中にこれし又
ひろうはかずいぶんの人も今まで人くらふべし
天下の侍どもみなかしこしといふ色々ず渡り
やまさものとまでて家老出頭人とする
ともしれたる書物やまりせし大名の家
老として公家王孫のそうそうとらくて男
伊ゆべきやかゝ呉朔といふて太公望ハ渭濱に
釣をたれしものなり文王これをとり師とし
またい伊尹ハ莘野の奴なりしを湯王これをと
りて三公とあり管仲ハ城陰の狗盗なり
てありし齊の桓公これをもとめて仲父と
あがめそのかみのみかくのごとくなるを
今の代もすなはちみなこれその才智撰をもの
侍ハうかひなる取りつけ事をもとめり
つきく家老出頭人のもとにかよひみなくまうか
さがみ中間の人々みなさまざま人のよはり
とて愚痴なるのみにせんすることの色ありかし
家老出頭人のもとへ参りて神位二つを取ぶりを
とうふ中律はらはたる大名の家にこそあり

やつかれず難文(なんぶん)ちらしてさき大名ならしとやかりてその国乃大寺とて修理(しゆり)といへるはこの寺あり新作(しんさく)邪見(じやけん)世此宗旨(しゆうし)をたてゝしやうとうあり舎利(しやり)を丹乃(たん)年欲こ此法(ほう)浄政(せいし)はその権をとらりされど同じみちしあきとする揚士(えうせ)とやらんがほま海のせくいひたりと伝へつゝこれを無欲(よく)して可笑記(かせうき)とつくり背渠(せぐれ)わるくいへてよまじむとりせりせずしてあひまうろくかうりどもちづりかりんとせんで筆まかせて作りまへり文後生(こうせい)中そうへしこれを打ち卑(ひ)下(げ)すなとおろか後生(こうせい)さていはまず今此世ををしゆる書物(しよもつ)今此世を対してなくてはならぬ事也

第二　忠節(ちうせつ)の儀は主君の悪事(あくじ)を諫言(さうさ)申事

むかしもろこしの人のいひつたへき穀梁伝(こくりやうでん)といふものゝ中に孝行(かうかう)此子は親(おや)の悪事(あくき)のことはいひふれてあらはすとぞかくすをせりとしもつぱら忠節(ちうせつ)なる道(さうひ)は君(きみ)の悪事(あくじ)をいひふれてあらはすとぞ諫言(さうさ)ましき也これはされど誹謗(ひはう)わざなりといひなしても親にそむひてはいかん打擲(ちやうちやく)はもちろん死罪(しざい)流刑(るけい)にあふともしらはるべしされども主君(しゆくん)はゆるしのまゝにつかへずされど主君も父母も此方のひそうわざなりとてきらひのおもむきにまかせて手前(てまへ)の悪(あく)をかくしひきて善(ぜん)と称ひゆゑなく人常(じやう)をあやまり天下(てんか)に掟(おきて)をくだしなとものに流刑(りうけい)わるくさたせん何乃誹謗悪口(わるくち)あらんや

誹謗わざなりけれハ折檻打擲死罪流刑とある
まじ但此方ハ不慈悲不孝不忠不義ごうく深く
よろづのひがことよりおこりてその誹謗するさ
きりを中なむしかるも定まる云ひむしまじなるは
しかぞやかん〳〵許て折檻打擲死罪流刑の
沙汰あるにつけても誹謗わざなりけれハさんなにとへ
洪水此ましまさるを防ニ堤をつきてせきとめんとす
ほどこし非理にせきとめんとするならハさらにや
ぶれこぼれていかなる堤ありとも中〳〵じきうれども法
毎のよあしいうてより今代のつく堤とくしと儀
まつとこうかなくいうかなるじされその誹謗わざ
なりとせさとしむろ堤とくるハ慈悲あつく義理つよく

ひとしく歌ニすく抽しと吟味ありて正路ます
なくれうそうてと臣下にゆうしそどもに穀梁ありとも
評曰穀梁傳乃文にいはくそのむかしいさめ忠臣ハ
孝子乃門よりもとむるとかやしかれども此一隠此事
よ二義あり孝行乃子ハ親の悪事をしのさ
諫を申していまつりて忠節の臣ハ主乃悪事をいさむ
とのことはしてあくじするといふまじきとふ
せり孝子ハ親と義とありてハその子その
臣下まそしきわざなきさをやうなかわかそでし
なりざるしとなりければなりてくとも主
てその才智まてに聖賢のおもかげのいれ
此とこをくさも悪事すなしとらふものおのへからず

そ乃子としていふあげんやうにてびいふかくて
みちやきうらはいふ泣(なく)くされよきくうふかとくにそ
孔子(こうし)ものきひかれ小松乃大臣也又清盛(きよもり)をいさ
め藤房(ふぢふさ)乃ろ也後醍醐(ごだいご)の天皇はいさめまし
よくひれときらいつて不用(ゐる)くもちひうてまうざる
はんちう形しる後しとの忠臣(ちうしん)は身命(しんめい)をすてゝも
主君乃あやまりをいさむべしいつの世にも竜逢(りうほう)
比干(ひかん)伍子胥(ごししよ)がごとくひとまありそうはいふ
またその悪をいさむとはいふまとありていく忠孝(ちうかう)ありとはいふ
親主君(おやしゆくん)をめのまへに不義(ふぎ)乃ことをあらはせいうくしる
ものありとつきの悪しきのもの忠孝にはいはざる
ありそうで諫(いさめ)かくあらひさらんはちうしんのみず

主君もし悪事とはしらで多く悪事也とそしりめ
されはわが臣也大臣は禄(ろく)をおもくしていさめず
小臣は刑(けい)をおそれていさめずは下乃こゝろは
通(つう)ぜずしてその悪事はけんへよなる臣ぞされば国
その忠臣はよく主君はいさむるともいうくさると
まへしぬるまで主君の悪事をいさむるとて
てその臣下とこゝろ殺して紂王(ちうわう)桀王(けつわう)也さらひ
おしてもいまはかろうじ国をうしなひのふなあしく又
といふこゝろりこそ悪事様かいさめ嫌へとのしきこと
申すまとなりまいふて悪事なりとしろしるへん
さぬ人つもいつぜんこ主は臣下乃いさめをか
しているなり悪かずよくとひらきのかし

第三　物ごと後悔せざる事

むかしさる人の云はく皆人はよく後悔をせざるやうにあり父母存命のうちに不孝にしてその後なくなりし後なげかしき時たすことなし不養生せずして大病にとりつかれかなしき時物ごとおろそかにすまじくして年よりてくやむ若き物ども学問せずして知とぼしくて悔む大酒のみ酔狂して醒て悔べし老中所なりの時利欲ふかくて無理いふまじきと後悔しかるこあひ読人の上をいふまじきつまりて天罰とふかりける命たまひの時悔つし猶きしうきさまよひかゞりて夫命よりもいとしきうしろかるまじく悔へし女子にまよはへりていひとかくるうちと邪ききわるき風にて悔へし

日比不忠不孝にして傍輩悪党にわづらひしたる悔ありし者すまじとて讒悪せしめしてたすくる後て悔むべし軽薄表裏にしてそれにて悪党らして悔つし弟の法度をもちゐずより飛科にかゝりてまくる悔つし悪人に悔つしいやしからぬ時悔つし華遊山にして首尾相違のつきる悔つし死ぬべきをちよりずしくちとおもひて悔むべし

評曰　寇萊公が六悔の語によりてこれ数ヶ条の後悔とをろもありし実に用ふるともいひつれどもわけて後悔の辨をすゝめていふも羅網の中のうにしらぬとはなげき呑鉤の魚も此餌を思ひざるとはりなしとのやうに思ひしりてかくは

その身の家に生れつきたる藝能をさしおきて
わきみちに心はよせず年よりてのち後悔のにほ
烟煤をなめして猶まなくさきへ思ふ事なくへ手
わたくし中比あふのかた傳つくやうにしての梅
草子三巻をつくりて現在の年いふかひなく見ずる云
未来をとうけて三世はくわうしくしきまず梅たず
やわりもん胸ふくれ腹のくり病をおこしてさは
かなしかるべくやし

弟四くハ末此縁にひかれ手
むかしさる人のいひつたへしハ末えんにひかれて悔り
中すぐ故あり追従是れハ情かまへと後かまひ気色を
まえりのくる人すと云ひきせゝをとられハたゞこれまん

ことはかりひさしくなれハすゞろくわうさんとは
あすみなくろうしさわるぞ假初にも筆をとるまじき
物の本をとゞむるべし欲
評曰この一段ハはじまりて草此よ物はひさしうて
うきよはよき時のうそめにまにとる物がたり
いそまくもすつかことゝなれハ筆をとり書とよ
むかしもんずし何しくわうかうず書ことよし申
みなその身此害になるまじく筆をとり
書をよむすなはちその物をよまするなり
きく事もかはしくむつかしものあり
第五つまあり母は妻をそし嫉のま
むかし唐楚国のうらにさはりのありて人此安寧よ

まんがしてくほかよりする二本あり一人(ひとり)の女ハ此男よ
あびる宿かしひとつのちぎりとゝめけり又一人の女ハ
わが夫(をつと)は大切(たいせつ)と思ひさだめしむかしにハ此男を悪(あく)み嫌(うと)みて
いまだいはく口説(いろう)てけれハ此二人の女の夫(をつと)ども不慮(ふりよ)の災(さい)
難(なん)にあふて死(し)ぬるかの男ねがふ所の幸(さいはひ)と悦(よろこ)び急(いそ)ぎて
はじめの女をむかへて妻とし次に隣(となり)の人此ハやう
いふの○よりむつましく契りたるをしり女はよく近(むつ)之人
て妻(つま)とすべきまじきかなれバ何と分別(ふんべつ)して日来(ひごろ)そを当
ときいひわくみつまじかりし女は睦(むつ)て妻とする
やとふかへてつまされバ此二人の女他人のつらさかく
わりしる様に契りとげたしいつはりし女ハ今又
よが妻とありても又他人によしほかよりすることもあるべし

み日ごろの様をとりてしくどきなかしみわれしもいつはりよ
あびるぞれ縁(えん)まくみきしいし女ハ只今わが妻となし
ても又他人とみてあるべからずとよりかゝこれしを
もらく此のつよ譜代(ふだい)の主ハなりそて敵方(てきがた)へかゝり
さん内通(ないつう)をたる人ハ又その主をとへかりすて他の主へ
かゝさんがろすずしき気にそのくるまからふ程し
評曰譜代(ふだい)相伝(さうでん)の主ハすてて敵にかゝさん内通(ないつう)
せしもの異国本朝(いこくほんてう)のならひよりこのむその人此
すゑ子孫(しそん)よろしきハなし敵(てき)に内通(ないつう)して味方(みかた)を
わろぼしたるものハ勧賞(けんじやう)わかりすれども○て雑言(ざうごん)
此まるびく又内通のきよりとゝてさらしめんとか
あり縁人さくまきまきゝふくさきまし

のミならずといへるもみなよつく利欲にひかれてく
はまるゝぬとする人もありこれもみな属
続とうけてうすの新人ともいはむもいふし下
膓のくはこそんともあはれなりけるとも口ゝかはず
てゝは人ハ属続によりく新人をこづるハ海よしのゝよ
あらずいはんやゆゝしき此曹無傷が敵に内通し
項羽の長回がまにうつしかうそのそしりを致く赤
代りつくりて悪名きえずこゝが後にはさらにひ
けあふじうかずたとへ軍にいくさぞくそれ
あるん軍中より内通返忠のものあり中にも寛
気よくにいへくちはるくづる口伝ありこゝ軍将の分べ
きゆるり

第六しる友あしき友なずらへ此事

むかしさる人のいはく常にともとしてしたしむまじきむつぶべき
人ハ善悪ある人義理つよき人聡敏ある人
学文ずきなる人忠ある人武功の人智略ある人分
別ある人医道ある人正直なる人又友とすまじきやうなる
人きいのひがみする人色好の人不断大酒をのむ
人軽薄とすく人短気なる人喧嘩ずきの人うそ
をつく人ゆだんある人欲ふかき人臆病なる人不忠不
孝の人

評曰あしき友の中に不断大酒をのむ人酒と云此
むねとすくあしきものとて酒いけるありあし乱
をそふとなれといへりみずかしまいつしずる人ハ

常にまごころてのむづかしきのことにこれときさら望
くずのし文た酒のうへには酔狂(すいきやう)ある人なんどこれ乱(らん)
まどひがちなるふるまひのありかたより正体(せいたい)のつまりしか
ありさまにかは酔狂(すいきやう)ある人とかきなそべしがそのはへき
その欲心(りよくしん)に数寄者(すきしや)などはこれ道人(だうじん)のひとしゆにして
清潔(せいけつ)宗辞(りんせい)とこの欲(よく)をはなれ情(じやう)をもちあはれなるの
あり時(より)くまじりあくわが罪悪(ざあく)を使もあらはれじ
いかでか悪友(あくゆう)の数にいりまじんやこの人は節(せつ)なる廬(ろ)
全陰胴趙列(でんれつ)のことをかなしみ浩然(かうぜん)の気(き)を中になす
すと和(わ)づくさやいまざをわすれかはしきなかりける
とぞちうしければ盤(ばんやう)ととこのまへてかたときらん
つまらぬ人の情栄(ぐえい)にひかれとかくは栄(えいぐ)とやかる人

よろしからくさしいのをしたがふ人常に人
の陰言(かげごと)いふ人何事にもかまひしき代官(だいくわん)

第七先(さき)がけせる名香(りやうしう)欲の事

昔ある人のいはく陸奥の住人なが川流左馬といふ侍(さふらい)ある
ゐの合戦(かうせん)に先(さき)がけとして大河(が)を一文字(もじ)に颯(さう)とこえし
ある居比新(りやうしやうひろい)なく悪党(とんやう)に寄り悦(よろこ)びの餘りに一首
先(さき)がけとしは名(かれ)代にも川もとてあそうて流左馬

第八富貴(ふうき)になるべき分別(ぶんべつ)の事

むかしある人のいはく人と生(うま)れて富貴(ふうき)をねがひおもはざる
ものはあるまじ但(たゞ)しねがひのかなふとも命○夕
海ひ○(めつ)りをしてわざかしがれんとして富貴(ふうき)も
なかづきはなく十年廿○も光陰(びひ)とももの久しひける

惜しとつみしらぬきつゝまく此富貴なれども七日なくつゞり病なる分なくそのゆゑなくしてかすみはく富貴もすなはちやう此ゆへさいはく口惜思案ひろくわろくも七先男智此銭がらなまやうなる一人不孝なるにはいのちのとらんぞしくとりいでゝさらく十年十五日もなにかくるもんと学文せずしてさかしくておさへくく此愚者よりも七そなる仔細いはすめぬ筆よりもまゐらせで愚文はきんは則すなはち心の功化なり経が四書七書三注周易等ともよみし自然の書籍をわきまへ得んすべき欲さわらんになとひていかにもとひ天命かくわかる費用は仏ともしらぬ世の人に答へあつかひめられ寒燕せしかど七ことよき費あらんとも何ならくときとりわけしめき尽へかなしむまじ楚王むしとかく

富貴ぞうつるう此愚人よりつ海しありも七きはくつ経なりさらうつきあしりとも欲念にゆかれ有害此世ひほきらされおで一生きう望へのあり楽をまで事さしく殺がれそろうしそわらんされハ智者にをひくい世の人すててとくこゝろ邉をそてふこ○でとどまでそうかなず富貴さ悠つし娥に友を求むより其りゆののしろもききその中になりとむ声孔子此時さし人へえうつし

評曰ほまつしくして富貴になるべき行一筋とほらかなりなかりにいつく修身も無常と飲ふずぐ寺不よ戒とうなへんとゆりかへ物ずとうまもりはゆましくとりとてきすんそこずをのまうへ此不孝とけんもつゝめえかきやうゆえうらひおぞ富貴る

なにをいへり抑世の人富貴をねがふといふハわが
身の栄耀をせんとおもふ心なり栄耀ところ
なんといふとも飢ハよりて下濁ひの盲の礎
これしかも百結の衣をまとひ食たらず蔬菜を
なめ人々は又朝の紙のかべにも金銀ゆたかにつみ
そこにをもつて富貴といふものハ是財を
ためる奴といふものなり貧乏人のとききはまりたる
ぞかし次に世の人ハ鬼とも又ハ畜生ともいはず
財宝をもとめとりてはそれにてもとめて不義を
なすなひとつとして不道にして富貴をなりたるものハ
これ又浮雲といへどもはかなきものにて禍の来る事
ぞうすらきはいかりをいれてもまづ彩る○夕べにひら

寝ずして日夜をくりその織をあつくしてはたらかず
わざびゆかりのものハ富貴をなすべき事ハたのしき縁
ひとへにおもふに世にをくりなりとおもふ物じて
貧福のありさまハ儒よりいはば天命なり釈より見
れば是過去の因果なりかれこれおもひあはすれども
天命にまかせ福分なきものハいかに富貴をのぞむとも
かなはぬものをすぎはひも是非もなき事とおもひて十年あまり
も性をつくしてはたらきたるものハ富貴を
おもひとりたる世の人とて家を務めていとなみ夕べ
星を戴き家のためをもわすれずつとめて
一人ありて又夜はみなく閨をいでて枕をさる
ことはりつゝ刀ハ寝てうきて此織とていせざる

年寄なれどもまづしきも富貴なるもありずいぶんよく身上の
よすぐ人あり又漸々に仕合よく成る人もあれば又
ぎりぶしとかくかせぎていかにしても又わらひは縁類の短識
とかくひわらひは福人にもよりさそはれてはなれがたく又ハ坊主なひの
わかつきなるもはいかしらの元をならしつゞきて大分
の富貴なるもおほく人あり性をとくして年来いよいよかむ
さるしかば朝夕の食事衣裳家居はいふにおよばず
まゝ富貴なるありて金銀をつみたくはふは世の常に
てハこれなきかはりなく天命果報のまゝうばは
ねハ才学も文字もなくて行をかくしても富貴なるはあ
るべきとなるべし
十年十八年の内学文して富貴なるべきなどとこそ

大学の学は力もたらずとりひ綱紀と禄その
くれはりとそうされハ学文は大つゝかなりて富貴なるや
おかつきなれども学文として富貴なる人あり
ちかつきおもおちぬ人あり鈍智の性わりなきつ智
至聰明なる人あり魯鈍暗昧の人あり又十年十
五年学文するとも衣食書物ともたくわへ
なき人ありまたそのうへに釈の年よりふかくして中かひ
とうすれども貧人ありこれまた此類世にかくれなし
まつて学文ともいつく富貴のことといふ色のず
学文して乃ともにかよはしき貧なれども富貴にも愚人あ
悔るゝことなく中富で愚痴なりのは牛のごとく智
ありて貧人は狂のしるしこそのけも富貴なる人も

文盲にしてつゝる言といひ万事のわざに田夫らしきハ頑なるゆへに貧なれとも学徳ある人ハ世の人あがめ用ゆるなりこれを天命と得心してそのうへ貧をもまへ次ぎなる人ハ富貴なりといへども学文なき人の貧なる次にハ人と交りをせずその分高くしてみえさるハ酒宴遊興の外にしても和するやうにて乱に及ぶものなれバまで濁らずして人にかはりなりてみたるにふして富貴なる人ハこれとおなじからぬ事なりけるぐ人に相違をしらず御中にあり此義さる人の目よりハ遊指の無風流なる者とてひやうしてその人のごとくいひあしき貧ともさしてあやうき御中なり孔子も時にあはず顔回も不幸なり是れハ学文ばかり

こゝろつてはとゞまりかねざるばかりされバこそこれ書の人ハいかにして貧乏なりとも学文自得せバ天命をしりて清貧をたのしミ足ことを知りて濁富にのぞまず遠方より来れる友のあれバ書を論ずるの義理をも講じてこゝろ居る家のたのしミをやすきといふなれや富貴になるべき行ひなくかはりとそれよりさいはひも福の神の御託宣ありしらず今の世の貧乏人の自力にてせんかたなく大福人となる人今信ある人の中にも希に一人もありがたし

〻第九五柳先生白鶴とをあげらる

むかし唐に五柳先生といふ人山居して世を遁れしづかにすまゐしてひさしくせはしくなく住し時白鶴といふつるを愛し

て飼(かひ)おけるが秋の比よや照そふ月をまくおそ猫(ねこ)てたし人此
侭(まま)なれし山のこゑみまりしきゞぞとなつしくゆくけれしさん
切(きり)かりうゑ立てく竈(かまど)の口はひさきときをとならやりみ
アをりさは人なれバおのがつまをひ合せてあらそひなりけり
今の世の盗(たう)よもひぞきめんくいふでうそひわろすべき牛馬(ぎうば)
犬(けん)ゐのかりのが飼(かひ)ぞろふハおど

評曰るハとられてみえんへとは其まひ馬いつなれて
をせんとは其まよふ飽(で)わり白鶏(はくけい)をとらわらる秋
わがらはなんの立てきんやかろかはとまもつて白鶏(はくけい)
此それをかめひやりかかる事なりしすまつきそ今の世
の人ひぞきんなりいるはおひやりのわろなぜにさはし
ぞり白鶏(はくけい)をとならしハ已(おのれ)を恕(じよ)をとふ物あて仁(じん)の端(たん)
わが力をもつて人此をまもるはある理(ことわり)なり先生(せんせい)の人をも
しらず今是このすゝめをと感(かん)じてうきてはハ婦人(ふじん)
の仁(じん)なりわれ猶恕(じよ)もなくとも政道(せいたう)の仁(じん)と云(いふ)べきなれ
白鶏(はくけい)とうらもむくぶしならバきて生(いき)しものは生(いき)ものゝ
みな程なく命をもしむ心をは殺(ころ)のわしとものがつみ
ずはなるとおもろくの魚(うを)なるどもとならふしわなら
より炙黄(あぶりて)食(しよく)をなすはいわそれしともそのずみがり
て喜(よろこ)ばおし是こそ白鶏(はくけい)のすゝめなる感(かん)をもつてして
害(がい)の世にも仁(じん)のへつて浅(あさ)しかなしくハ万民(ばんみん)よりも上
よひきをもろもく仁恕(じんじよ)をはし待ぞかんなくや牛馬(ぎうば)
犬(けん)庭鶏(けい)のかとをぞ飼(かひ)ずとも云ふ事ニて是を飼(かふ)
事もなくは仁恕(じんじよ)のこゝろなくハわろくべうらず牛馬犬鶏(ぎうばけんけい)

猫(ねこ)乃獣(けだもの)ハもとより家畜(かちく)乃かたちにて人の家にやしなひ飼(かひ)おかれバいづれの家にもこれを飼(かふ)ものゝ心(こゝろ)と性(しやう)ともなる人間(にんげん)とかはらずといへどもいつまでよろこび食(しよく)をおしむ牛ハうし便(べん)こゝろあるまひハそのあるまじきあやまちそのまゝをとかしあひてハくるしむひとつかみ鳴(なき)ゐるハ食(じき)を飽(あか)る時これをとりあて鳴(なく)もあるを人としてこれを見はなりてにすがへりてその鳴(なく)ことをしりかくこそ打擲(ちやうちやく)をそれにちかき僻(ひが)事なりいはんや牛馬(ぎうば)ハ人の為(ため)にかりをかけるものをおひまちはよそふ食(しよく)に飢(うゑ)ちて疲(つかれ)て喘(あへぎ)もえてみちもなく鞭(むち)とくへ責(せめ)つゝかれそれにすまずその牛馬(ぎうば)にまかせよいかなる○ぞはかるをもよく人に通(つう)ぜず

かゝるうらみをとふにこゝろなく神うき瀬をふくこゝろざしも鞭(むち)打(うつ)よしかるにちからおよばずあやまちとみゆる足もまづ残力(ざんりき)によりて出ず胸かる神を恨むる人にむかつて鳴(なく)と打人の罪(つみ)にあるべし人にむかつて咬(かみ)嚙(かみ)打時人こそほねおれまなこにいかすも残力痛(いたみ)にかゝり患(うれへ)にわづらふ備(ひ)神にのりて血(ち)をとかしむるごとしいはんやその重荷(おもに)を負(おひ)力をつくして牛馬(ぎうば)にはつれと思ひ至るべし己(おのれ)も牢獄(らうごく)にいましめられて泥(どろ)かわきて食(じき)にうゑともしくのまてにそのうらむることはせつなく色(いろ)よろこぶゆれげとて己(おのれ)が耳目(じもく)のかぎりさみしからず籠(かご)に入(いれ)さらんハ不仁(ふじん)乃行(かうかひ)ならずやそのうへ一家(け)のうちにハ妻子(さいし)奴僕(ぬぼく)あり一郡(ぐん)一國(こく)天下

の主みな己をせめて万民百姓の上をおもひやりてあはれみめぐみふかゝらば福はおのづから来りなんぞ白雉のすゐを感して只なんぞものをおそれむかくだらんや

第十子を育するに守を撰ぶべき事

昔さる人の云は大かた小身富貴成る人の子は乳母はあしき人をえらみ置しもりする人の愚魯無欲なるをばよし小性衆は神妙奇特なるをもつぱら乳の人は氏系をえらびる下戸ならぬ也とぞ

評曰人の子を生つる誰か悪かれとおもふ人唐にて胎教とて胎内にやどりぬれてもやその母みだりなる物を見ずきかず詩書経を見させ食物もえらびすなる

ほかいまだ胎ゆの時もしらず侍時も側ちかく此ごとくして生ずる子は利根聡明なりといへりまして生れて後は乳母はしやみなよき人をえらびかへする人も器量をえらべども後は生長て力のおよばひくぶてのはしくなるもの也幼きよりよく生立まいらせてわるきことなき人になるなりとはいふべしぐしすでに堯の子丹朱舜の子商均みな不肖なりき聖人の子といへども天性の命なる事はちからをよばず讒訴よりそれ中よりそだちとこの語ありといへどもよく生立あれば中よりも為とぞ云る孫どもん孫のうちあしは幼ときよりさしあげく只成人の後まさる愚魯無欲なるものとなるべし

一第十一　藝能(げいのう)をなぶりあざき申事

むかしさる人の云るハ牛ハ人愚痴(ぐち)にして角あるゆへに動(やゝもす)れバ突合(つきあひ)犬ハきくぐちにして牙あるゆへに動(やゝもす)れバくらひつき鷄(にはとり)ハくちバしにて距(けづめ)あるゆへに動(やゝもす)れバ蹴(け)あふ其のごとく才あり藝能者(げいのうしや)も人愚痴(ぐち)なれバこそいのうをもてぶり自慢(じまん)して他をそしり○こそしりて後(のち)ハ本人嘲(あざけ)口論(こうろん)をいたし恥(ちぢ)をさらす畜生(ちくしやう)同前(どうぜん)に浅ましくこそ見えされバとて人のふるまひハ位(くらゐ)ある人大身なる人金持(かねもち)御人物知(ものしり)なる人力強(ちからつよ)き人利(り)こんなる人うへ劉する人

評曰さもそあらん畜生(ちくしやう)さへみるめ行(ぎやう)の偏気(へんき)よりなる生(しやう)ずる也なるを生れつき頑(かたくな)にして愚痴(ぐち)なる人ハ又行(ぎやう)の正(しやう)

気(き)をうけて生ずるなるその生れつきと観(くわん)じくらうしにされども正気(き)といふ中にも性(せい)の精(せい)なるものをうけるハこれ聖賢(せいけん)なり性(せい)の情(せい)なるかさなるうけ生ずるものハ世乃常(つね)の人也常の人より又中智(ちうち)と下愚(かぐ)とわかりて下愚(かぐ)のものハいふにおよばず中智(ちうち)以下がひすなハち稽古(けいこ)の功(こう)によりて一藝(げい)一能(のう)をよく[illegible]煉(れん)せし物乃よくとゝのひわりまされどもその性(しやう)愚痴(ぐち)なれバその藝能(げいのう)をなぶりしとせる也畜生(ちくしやう)のやうそふ者ハ愚(ぐ)より出るまゝ人の所そふ者ハ我慢(がまん)我執(がしう)よりなるハみなりハ又愚痴(ぐち)なるより生ず世り藝(げい)能(のう)よりかへりて喧嘩(けんくわ)口論(こうろん)し位(くらゐ)をうしなひて口舌(くぜつ)をいふしやぐるハ申楽(さるがく)と座頭(ざとう)ばかり

第十二　身乃長(たけ)短(ひきき)形(かたち)乃好醜(かうしう)を歎(なげ)くまじき事

むかしさる人のいへるハ世間(せけん)の人ハ我(わが)せい長(たけ)がひくいとて色が黒(くろ)と悔(くひ)出しむしろあれ況(いはん)や他人にむかひて歎(かこ)ごとり愚(ろう)かしとかれこゝに子細(しさい)ハ金子(きんす)ハ少(ちいさ)なれども萬用(ようろ)かなふずして天下のたからと成る針(はり)ハちいさけれども衣服(いふく)を縫(ぬふ)て衆生の助(たすけ)と成る墨(すみ)ハちいさけれども佛經祖録(ぶつきやうそろく)聖經賢傳(せいけいけんでん)の書(しよ)をうつして天下乃助(たすけ)と成る漆(うるし)ハ黒(くろ)けれども諸具(しよぐ)の助(たすけ)となり竹(たけ)ハ長(なが)けれども其中空虚(くうきよ)にしてつゐより山のふしこそ光(ひかり)なきをわろしともつく賞(しやう)し須玉色ハ白(しろ)けれ其身これをいとひもしとハ人ハ肥(こえ)たり又瘦(やせ)たり人がいかにひとりしもかふまじきたる人ハ浄(じやう)て中をはなれんと食物(しよくもつ)をとゝめらるともちがふてハかなハず

気血(きけつ)ハ弱し病(やまひ)と生じ壽命(じゆみやう)をちゞむるもあり又瘦(やせ)たりよる人ハつねに肥(こえ)たるよりひさしくもちかふまじきかゝる事を淡(あは)くこゝろえさん人の食物(しよくもつ)をすくなくして筋のひ君(きみ)のびをせずして気血(きけつ)もみだし病(やまひ)と生じ壽命(じゆみやう)をちゞむるもあれハ業(ごふ)師(し)出家の出世者(しゆつせしや)齋(さい)靜(せい)が身を清(きよ)めて書(しよ)を讀(よ)む人も肥(こえ)る事をもつてそのきらひとえん差(さ)しハ又世(よ)の白勢(はくせい)の出絶(ぜつ)もなくみだりに一生をおくりしきものなり利發(りはつ)の人あり此男いうにゝゑ勢(せい)ちからのなんのかぶもなけれバ我身かなしみ悔(くゐ)しみ思(し)ありて妙(めう)ありの無念(むねん)さにはかなくと思案(しあん)しけるが後(のち)によくみけれども是非(ぜひ)子細ものぞき勢(せい)此事を持(もつ)てかれハ其(それ)ハ安(あん)楽(らく)をもとむる人に好(この)むわりみなさ悔(くや)まれ

少もひそかにし呂勢のこゝろさしと弱めたまふを惣六尺が
まりかく蚕婦の処女わりつゝけさえど返つとつく狼ひろ
くせさかりどもは寝もなく此女懐妊して九月とゞまりし難が
く宴の間とゞく悦びとりわけてこれは娘也われ男が
おてかまつりし胎教なかりしつゝきはかりずそでまつり
くて此女は悪是非男子をまうけんとせで寝て生
れざりつゞきさ海は女子がかりつゝ人までゆてり好む胎教や
さんきやと怒なけれどもひりかく孫ちりそろうさら此
おぼえそうかなとおしかけどもさすがにちりとかくおもはずして養
育するいとふかうかのおかさむこをするろしことぞりてさるのありり
をまかしその形で貌ひざのよふくうつそく災にあひ人
おつ成人すまされぞ此娘をいづれも母に似て容悪くるしき

ひしまく顔ばうわまへく口ひろくひきいお耳ちゞく眼は
そく頭かゞく短きはいなむかふく六尺中の女也されバ
えむことりよあつるまおそず何ともわてつひとさろや
されバ生まつるあふるを強く飾り好む時は必ず禍の媒となれる
況や言葉づまのこゝろより切なれど富貴を祈りておもひやりて
全くよりおふまじきゆゑ強く求むれば必ず殃
礼の行ひうすき命わやうせんゆかれべき年

評曰勢乃姫によりて数ケ代まで伝はりしものの
取柄なきといへり取柄なき物をいはゞ若瓢も一號は
ありて縁を以て金をとめて宮とめ命をもうしかひ
拵へとめて方とうろかしこりあり是は倅絶名をとぐまゝ
よきものまでも蒸餅数艶書起請あそばし其連判をうき

て禍となりわり添ハ又人のおまつきそハ瘡を生じ
あり足遅れバ蹴となる竹ハ空虚なるをもつて負
となりて山気乃用水を通じまたきよ山するも石を
おして人用をとゝのふ家竈ハ人のいとむとくども困
煙よみの虫なりまたの卵殿鼓乃皮まても背を
以ぞ万物をのく一能ありてやしおのく一挨とらぞ又第に
神をのく一挨わり勢乃少しにハ肖あり山喩字に
くなるず只勢とうひとく形ちとそわりとあかんを
そりゆきなく人ありあしに用ひ所をとり三番也
唐乃済平髭晏子馮偃が事乃生又乃まよづる世
又人小さくずしてみなくらく德をれぐ云りわが綱
たし人ハしずりの山乎勤なぐとうき勢ひなく一同

ましてきつもちんぞなりされども軍法乃ありや其世う
よろしく楠まさ城又天下をもぬ男なりき軍法中
呉乃孫呉なしずやされども晋乃王商が方の長丸
天なり単于これを見てく大きに勢ひありて人は肥て勢
ひとくにハ見て來り威ありて智勇を別も力なども
ゆづきやうにゆがゆるなりされぞこそ人肥たるが故に
さるまさしにいはゞ智わるとゆつくさるゝとすと云ふなり
痩たる人ぞも才智ゆたかく肥たる人まハ愚癡なりし
といへり勢乃うすき方の痩肥たるハ天性のうる家
あまたあるべきとしらされぞ痩たる人ハ肥をうらやみ肥たる
人ハ痩をしやむ是ハ細腰をこのむゆゑ宮中に餓死
ありしぞ痩肥ともにまづそれをもつくるゝず

勢(せい)のたかき女をむかへし雛(ひよこ)のまゝ世にいてくへし女の丈(たけ)ひきゝハその子勢ひくし母の勢たかきハ子の丈(たけ)たかしとかや後漢(ごかん)の馮偃(ふうえん)といふ人身のひきかりけるかゆゑに子孫もさそひきからんと子に勢(せい)の長(ちやう)きを娶(めあはせ)てふしも侮(あなど)られ例行ありて安(あん)楽(らく)すなはち子孫(しそん)のみな種(たね)にはるべきことをおそれてわが子馮伉(ふうかう)がつまにあのれど勢のたかき女を娶(よめ)にとりて嫁(か)へしかくて其子伉生(う)まれ後(のち)に馮勤(ふうきん)といへるぞ名のある人なりけり勤か長(たけ)八尺三寸あり尚書(しやうしよ)司徒(しと)の官(くわん)にいたりしとそのことわりて今の世の人をみるに勢たかき肥(こえ)ふとりたる人にかんえんとりさしかひくのあるはたゞ世にいふ独活(うど)のさまに木鶏(もくけい)の所見多し(?)

某(それがし)いかほど富貴(ふうき)をねがふともかなふまじといへる中に自業(じごう)相應(さうおう)の鄧(とう)通か第八ハ餓(が)に富貴(ふうき)をなすやうに許負(きよふ)が相(さう)して面(めん)紋(もん)をあかしと書(かき)けりまた切(きり)のまもあるまじ

第十三　軍陣(ぐんぢん)の日どりの事

むかしある人のいはく合戦(かつせん)に勝(かつ)べきためには日どり大風大雨大雪大雷(たいらい)夜闇(ヤミ)大河(が)大山をこゆる時は一段よき日をえらぶべし

評曰軍(いくさ)ハ不意(ふい)をうつを好(かう)とすと兵書(しよ)に見えたりしかるにひのえうまを見てやみくもにするはかりことなしかくて(てき)の行(てだて)を撰(えら)み大風大雨夜の時(とき)大河大山をこゆる時をえらびてすれバ敵(てき)もかねて用心(ようじん)す

そうしぞくハつゐにうち負(まけ)たまひされバ爲てくるしくこし
るハ時まゐりて桐遠(とうゐん)もろともゆかりし其古辛(しんく)のいとを
ひらりして千變万化(せんぺんばんくわ)陳機(ちんき)應變(おうへん)とらふ事とも
工夫(くふう)をせしも世次にあらちをせうぬてりハ軍將(ぐんしやう)の
まとうぬおもり軍ねるとてゝりわまでし古辛(しんく)せん
よゆむとなつく打かゝりるゐゐなく眠(めう)の紋
丹敵の半ろ滅しうずされバ良將(りやうしやう)乃陣(ぢん)にかうち
ありまハ長ゐしときゝず

第十四　世乃無常(むじやう)なる事

むかしより人のうるハうき世乃中代をおもふまゐてかまへて
身乃ときもあむきもちとうきれバしして世とのがれ静(しづ)か
なるところに隠(こもり)ゐて後の世を祈(いの)らん事なる志(こゝろざし)人あまり百(もゝ)

世(よ)ハ期(ご)せんや繼(つぐ)る年(ちとせ)とゝあるうちも終(をはり)をとりあるかしも
明(あけ)ず町(まち)まくも命(いのち)とらん際(きハ)にあるさ人の手のうちるを捨(すて)て出(いで)し
ろめん人の為(ため)ハ術(じゆつ)もなさけり悔(くや)ミして老(おい)をさて身(み)
まかしあるべ妻子(さいし)をすまして備(そなへ)もせし方勇(とう)あるも三十(さんじふ)まで
末の年月とかぎ人ころに最(もつとも)の秋乃霜よりを得ぶふとて
皆ゞあれ久かりなく(あづ)て四千余十(しそぢいそぢ)と終(をへ)て百世(もゝよ)まありめとも
みくらよく数(かぞ)へし淫(いん)やく人ハ一年に一二とうつて定(さだ)まる死(し)
期(ご)とすされども昨日(きのふ)に生れて今日ハ死(し)し少死(やうじ)に常(つね)に近(ちか)
幾(いく)ぞ世乃無常(むじやう)の事陸(くが)ゆく駒(こま)の歩(あゆ)ミを石火(せきくわ)の光(ひかり)
電(いなづま)の影(かげ)めぐらしされども年ハ雑(ざつ)がゝせ今年ハいかが死(し)に
さき此月ハかうりきのハ雑がきえて今ハ雑が
あくられわとうく人されど今うや後方のかあへきまわつて

むかしやうやうまでのがれ来たる命の絶ぬるときかなしきことよ
と發りて世をのがれたる道者をもとめて出家して後世を
まうけんと我がかたりし云ばかり猶も父のごとくかなしき事八
いかに前業(ぜんごう)のつたなさよやいまた衆生のえんつきずんばとも
出しかるに老(らう)也わかれしかるにもびいのがれさるべきをたす
何のえあらひはつ人仏の報(ぶつのじやく)しけり思ひあれはとのれと帶(おびぞ)也
ありかはひとつくいつて偶然(ぐうぜん)人又弱(じやく)そのかすと成さんと欲也
さとりの残もく親(じゆ)して一郷一処(くき)の風と稱のことさわるぞ
けふの中にかはらくをかざりけ日はおはるべからず一日ふ
一人二人ぬきあかんや深く豊之口神田(かさなきしんでん)山にはしまかかまりく
北山とふ無常(ひじやう)の煙とぬけおくかず老(ゆふ)にわかれぬれは
とふた病(やまひ)ある無病(びびやう)なるなるもいふきゆくまた女僧位(そうゐ)すみよ

らずゆりひくけぬは人の死(じ)路なり

第十　又父母にをくれり遊(あそ)ぶ道をしらずといふ事

いにしへさる人のいはく大聖孔子(せいこうし)のいへるに父母在す時は遊(ゆう)する人
は遊山(ゆさん)見物(あくさ)の爲(ため)にゆきて一日(ゆき)をもまてあゆくづくす
こと子細(しさい)は我かへりてまた父母に立てもし日をまって
はるべず無沙汰(ぶさた)をして須出してほかにかしたるには父母のみ
命にもつゝがなきもあまたも其かへも知ずしてつかの間の遊にも
ゆかれへるかしとる物(もの)にものしぬへし又父母のめしつきかへて
けのむかしとりかしありのしかねるとも父母の
心をもくろうちせんとするとは父母の心をつくしをしへとし又
母の誹(そい)をきうけかゞ弾(だい)をせぬよふおかしとや

評曰此一段孝行(かうかう)のことはとえるなりこれ礼記(らいき)の

文(ぶん)り父母いますときハ遠(とほ)くあそばずゆくところ方(はう)ありおもむけハ告(まう)し入(いる)ときハ面(めん)すといふことをわすれたまひて草賊(さうぞく)が風情(ふぜい)のやうにみえ白(しろ)が負(ふ)米(べい)の歌ある昔のかたにみえたるもあるべからずや

第十六　身の振舞(ふるまひ)分際(ぶんざい)に過(すぐ)るすべしと云事

ひとしきる人のことハされど人ハ人のまゝ○としてくらゐあれども様子(やうす)によりて大名(だいみやう)が小名(せうみやう)のまゝ○とすれば家としおひかりが方がまゝ○とされども分ぞあふわうひハ侍(さぶらひ)が町人とまゝ○町人が侍ぞまゝ○お家が俗(ぞく)称まゝ○俗(ぞく)がお家ぞまゝ○此分お別あるべし

評曰孝経(かうきやう)に曰きず貴服(こうふく)と服(ふく)をはこれと僭上(せんじやう)といふ僭上(せんじやう)ハ不忠(ふちう)とよす貴(こうき)が賤服(せんぷく)を服(ふく)すること也と

偪下(ひよくか)といふ偪下(ひよくか)と失位(しつゐ)とすといふ事のわけハやすきものよき人に表仕(まね)して衣裳(いしやう)以下よろづのことをみすぼらしき者(もの)とまねするハ世に僭上者(せんじやうもの)といふことなり僭上(せんじやう)とこの心ものいふ事もつよく人ともあしく或(あるひ)ハゆうふくなる人ハ手細約束(やくそく)しあつすに桐邊(きりのへ)也さ事まで身を実義(じつぎ)なきことを不忠(ふちう)といふすまわりみるの方不位(しつくゐ)もよく人に出家殺(そうさつ)ものもきのとしてかうするも方をらうらうじく麁相(そさう)なる人ハ世に偪下(ひよくか)くといふものありえんし(?)のぞれたり城ゆぎとさるあきとよつく人のさめにあるをいれそのようら不位(しつくゐ)え出生(きうさう)せぬゆへとよく失位(しつゐ)ことを分(わけ)あり此書にいふべし分別ある人ハさとり也

されどもけふより事あらんにこそ一概にいふべからず最明寺時頼入道は修行者のさまとして諸國をめぐり四海をしろしめさるゝまでありこそ申は勅勘をかうぶりて籠居辛苦ゆゑあしく楠氏これより軍よろしく運をひらきまつり軍陣の策千早城にして敵を降す事度々ありしぞ

第十七見物の場よく人を押へて喧嘩せしむ

昔ある人のいへるは一日中ずれわみ芸のさこみなるが此見物よいかさん幾千人の中へ入ける所よりまかりし此見物あるみてまかりし其人ありて芸かり見物もちいたるもあらわれて其角をれどもみてずぶ不埒に小腹のたちし見物の人あやまりてもとのかたよりもとのさまよみちにしてさみの方よりいつくやしくそれ

がくもどこに頬とおかえんとすなはちかの目算あの勝の差しるや銭とられわかるならぬかりて對して銭をはらへはかま銭をとるべき人又銭十對して勝をとらんとし銭たよりとられて勝のいへとく銭右の人まさにかゝりてとらんとし銭をとられて勝ってもまことに銭乗ある人みかえてやらずし不埒にてなほさらぶちあたりしとかのひすこしもゆるしはりけるにかかりて打ちものひとすし身を引あくるまでやうやうてより方の他にこれあり七

評曰世の穢子なる人まさに大名高家權門勢家をもてくるみにて名にかへてしめ宮は猿楽田楽歌舞妓篤此勧進の場を除かるべからず寺格式此あかりの所ならず上下男女いりこみて觸穢丙丁の

悪僧穀亀邪名なくさまにかはらず魔障怪異此ゑざるは
よりて一時の気は湯悪を浴たるに及びく初をと
くるくはなれしみとかやもち合をとしおのわり
此方に人りもて也くはしかるにそれのり除むてさふ
はかずとみえまりこ此書にこづうやるあるもしこる
けるは悔とも是家に立る見らしろまのびはぞり患と
つまぶして垂に押合しハ下臈の輪見ぶきくやま
勝なるもの哉まむ閑楼あるべきまにしや

第十八　言よりかたのらをとらひをりしる乎
むかしある人の云ろハ銭一つとせ翁なるしはぞひもよるぬ
人とものえしけはやわまのなりさくりぬしゑづかな
さき念乃山此君の理まて来人しも浴くらくつてきとち
ふしあらぞれ侍べりき宵に投かハすゞろに滋かりしき間も
わか浴屋に人めしはしよ此山のけも神くとうるある九重此ひと
つまらすると云ふしとぞこら湯者のさく火の投かハかりえ
てひのハさえて日ごろしの抽りきくてまく計あるにれ
ありづきの御来なりかり綿まけみそおぞくらあるべき附
ひまり宗とふ乃細布むよ○むあそびどもやしぞ彼岸を祈む
久ぐれハゆりしらく姿さりりしも行人と中きるもの陸も
出居ちにめあて松ぞ○よ乃枕さえあも思れくしハ風乃妻こんを
音づるにも人見えとせ○すさらざあまりしぬるとけます
くてひるに出人みえ此に枕りよ手枕すずりハしまちれ
乃滋くれ抽もいろれずせあくの松綾にハ此ぞのつれ
あき浴らしとはつるまゝに夜を一夜の秋の月さへ宴ぞこれ

かふさゐふ人のまげしら歯とろむきな人まさむらい
とよつなれぐにすごしめしくうちとけつるに別(わかれ)を
けふ八しまのなみくと暖も血(ち)に流れさらにまへあ
あそびと来なしめるもうきあくまでとりやりなら書(つまづ)此
おとりもわれしくあかずみうにさあくのうかりけ
みしみえぞうりとさてふまで○のうさつくさい[illegible]
なしけくなし枕のゆめがつらなき一筆のさよりとどむ
かあるにその日もつまくとなる人まお此(ゆうあい)郡まるの○の枕
みひざき絵まし夕まりてふらうなしさうひやうんも云ふ
なづまされども恵の花のえならぬ色文(ぶんろう)書に対(たい)して是れ
なくハ恋しきんと二人ながめなどよゆめひまうれしきぞ
ゆうの風そハ此花のさうりわうちら恋すりうなれ

見しみせずやと待うひのあかくれずれくまゆく添生(そひ)の
なごりのおしく花やかのみまちりて宮の余此もてまなぶ
ならさは月名子楽などおもゆう世のゆかりの
きこえくあなたへあはづひにまかへく様方やらの然(わさ)なるさ
と嫁く恋しまうし此蝶(かうち)とおちととせ耳(のき)にふってわれん
の管(くわんげん)あそぶ明でよの子細(しさい)宮(まで)の枕の雨やまわの破(きさき)笑
日より男党(とつ)よ生まの出の去ひ日くらしまづる学問(がくもん)
遊(とび)ふまでもそれらかひのつまなるさんへやうてたさ(かう)
詩歌(しいか)の集(しふ)伝し抽絶とよみてんのうき尉(なぐさみ)と
それだにもあきさび機にくれさく文字(りんじ)さうかず気皆
恋のゆめにありいつの外をほうかの恋風の吹そえて
何ともおもきなき人に嫁ゆる時ハ恋する時わきうつさきと

されどの物どもゝらく面白くありて人のこゝろみし
こともあり歓会の中よりそのまゝ盛なる人すみかで
侍ぞかしそれはかゝる人の中にもかはらぬしるしこれ
ありしまゝにものゝなかにも此御方のうへのつ定
まず我らもとる此大きり切もえぬのしくらき実
のたまふかひ正理にまよひていづれど衆苦にせ
むしろもその衆苦のつきさ事が一興とあるべく詩文
業のこと○ともあり歓会の助にも成べし
評曰歓慕のこゝろになかんとを昧却し性理の書籍を
くなうまずられとのらさめのく人はかくさらめしく待
るしが忘んのさかあれば日ごろ悪しきとせられし
ありどの物みなれりしつ成らは年尤さもあるべし

ありこれ三界火宅のうちに流浪して仏没の中
くはらまさしおのふ年を無明とよ○そうして我執
つあがれて住せしこ後にはみえあり仮の世に仮の父
と恩愛を成す海よりひの中此惑かれどもめあうさい
中すきにこ此まどひのこなかりしとこうり中途に
ものうえさらんいとらし沈にくるへ海上のえに
とらか年ミらづく衆苦にせめられしく金銀と
せしへ此に楽みやさしさの事さしき恋忍もし人
此んぎしにはをありにまよりてや色衆をともまづき
とならは頑愚人かり衆生人はこれども心づから楽
て衆をどる人ざは海よの恋人なりもえて実仏
なうなく衆人は今の世には邪婬さまれぞ海どまて

さらぬ事にもかゝはりよろづもいろふもれ
あしくなりその中を君の御ゆるされハ無用ごとなき
共適なく莫なし

第十九　円頓宗と禅僧と問答の事

むかしさる人の浄土宗の円頓上人と清見寺の
衆寮僧と鞠子ふじ川の舟にのり合の時円頓聞
て此僧ハ禅宗よくしらず衆寮僧こそ入て清見寺の浄土
ぐれどやはらかなるハ禅宗でゆるやかに円頓上人よろ浄土
乃和尚なりけれバ一休和尚ハ鹿を食してかすてらハ
吹ぞ若よ数くさてつもけりしも衆寮僧こそ
祖師よう奠とくらぶて二祖のわみず吹けりさ
彼しよう円頓宗こうくて実なて人衆寮僧よとえ

とつくやかうぎや一休和尚ハ芝をくらつて葷を
ひしきとそうくもきぞ

評曰此答話候よしき佛法の正答にあらず衆寮僧
きらふ所田夫野人の戯言とふなるべしもとより乾屎
橛の語ありといへども高上の一則として人やす
く口外すべきことぞ今の沙弥みだりがはしく
戯嘲する事老僧を私ろしむるまじくちなき
とうぞしむ仏法の言語をとゞかしになくみ
てこの答ありとあらバ仏法の言語あざりけれ
らずとぞ賊むるん魔魅なりずや禅の祖師
かくて言語をゆるしける中伝記よみえてあり
円頓上人の沙弥がりのよくなんゆゑしる問答

ありて琢邨にをよばん甚しく口はとぢてはぢ其仏かくさんの遺風あり昔釈迦仏在世の時外道来りて十四種の難を問けるに黙してかへしましまし悪性の比丘に黙擯してこれを佛法のゆるしてありける○てかのあやまりをしり万徳玄和尚ハあるよの弟子ありしこれ書になるの志をもハ万徳玄の無言にしてかみてをとくしてそれひきはやわしとゆきひるも

其可笑記の誤にて愚なる理をとく又するしかる人の心さハ大名よのかなれずさへてうて姿ふくく見ならひき小性とゆかくかしつかひ知行金銀かくらし此意休めしとこりれいとゆかりかる

おりおのくいろ悪かづしかれどもいかにもかくらすとめみをまきつつまうしにゆかりし過日夜郷党嫌乱にゆかれ酒宴に長じ不忠不義の法ありてぞりはして無理僻するゆるく代々の家の老どもをそのままにおきて仕置に手を以下をみずりおりしてはゆかつづくはやらし気をいるみうかしきて家老どもいきんいささめとつらんとすれどももちさきは世がくすなるもずの○まきはくなくいへかく悪道なるまま折えしまま次第にかまれ人の老を別とかへし先以かれらの目がつきりますきこの主の名をくさくいとより網の人わまくされ主の家もちをとりて過ぎまちの事もよらしてゆかんさ候衣ほ入ゆくうりくと俗の儒者の面白くはずと

ちかしきやくさまかくの機縁とさうじハ佛法ずきれ分ぶあ流にハ縁あるをまつく善に引入悪をまかりずも儒道悪をきうれ分ぶあ流にハ儒道とまつく善に引へ悪は老りぶ無きうちくまさ人乃尊に信してそく人ハ法にハ重きをみうのまえどもしをせめのくまりかり遊びまうまくに儒道によりてつづき善にせめしき悪はすてまふさあれバ此の老荘とも名冥乃善人ありとゆがしむるに依而ておろ不あり主宰にさせなきとあり是バ女家ずき此ぶ主宰あり而徳悪ハ打ち入まふとも老荘の差別方覚とまつくその悪をのぞき善に引入けすすぢまるあんのきうじハ何人や別や公餘のいかき主宰とや老荘の両くろわぜ

評曰老荘の差別とまつくさまるの悪にまかりありすきもわるじといふどもみな一概にさうがたし且の殷乃紂王悪のをいまし時文王聖伯とやせしめけるにきつくいきあり其しまうんて羑里ゑいこられおのき比干ハ心をさうれさりとゐりみ呉王夫差ハ西施に海ぐひてまうくりどともさりしとその臣伍子胥をぞろくいまかりしとぐいくこまふ死とさびるりこまくハみなに代の至賢ありしが差別まづて今の人これにおよばんやされども紂王呉王のくにわかしにあまなす中ゆきりずね国家つ并まおうびにおりまてぐく名易の人而ハ家老都統といへども人の事によ抽ます

事なりがたしされど書籍（しよじやく）双紙（さうし）の狂言（きやうげん）世（せ）わくの
噺（はなし）なりされ上方の人此異見（いけん）なりこの本にも
細川（ほそかは）乃頼之（よりゆき）天下の執権（しつけん）なりし時に童房（どうばう）といふ
ものを召人までにはかりもて常に臣下の法家
りをこまかく気をつけてありけるをきゝてし
きゝ事ども世につくさせよと天下のうへしひ雑（ざふ）事のものにて
臣下に智恵（ちゑ）といひ又しまりぬ御前（ごぜん）に噺（はなし）乃ために臣下
乃は茶事につめく書書山乃事をかくしてみなそれ
鉄砲（てつぽう）なり此異見（いけん）なりとやしまりられをはしき奴（やつこ）
剣術（げいじゆつ）何事（しごと）それは法まはきまき噺（はなし）すくも臣下に
きくすりの為に臣下たりしく世の人ひそ世のひとつては
うつびよく世の人の事はかりをいひ事なりと知べし

惣（そう）じて上方の人は何としても天のちからある時と
武家房をそへりき果（くわ）しさきんとする物なれば
初めはつよきげにみえんとすれどもそれはかくれなきもの
なり衛（ゑい）をとひつくいつも少しもそれはなるそ
営（えい）と生（しやう）じ上方乃利運（りうん）方との戦にてさるあひし
出おりし武田（たけだ）乃勝頼（かつより）は陣の事に時節（じせつ）を見まよ
中をれどもやらんずして負軍（まけいくさ）せし時山縣（やまがた）
さしも思ふ馬場美濃（みの）守すぐちに死（し）をいたされしは
その武勇（ぶゆう）功名（こうみやう）乃ものにてありけれども勝頼（かつより）いさめ
ときゝとりしも力なく智（ち）もらでひくきらへてよし
ありけるに悪逆（あくぎやく）あるもとりまさる臣下はやしき者も
善（ぜん）をもつて時のいてまうするの物なりこの書

よろこびの至極乃婬乱悪行のたよりともその至極年やうやくくだつてゆくをもしらんものなるべし平の清盛入道新都を福原にうつさしが万事心にまかせず諸人よろこびざりけりかし勧修寺乃宰相家房のいさめすぐにいさび都ともとの京へかへしてかゝれしは大相國をさめける都がへりとせめてうらみび今の都へうつしゆくあそびを軸として末代末世の悪行人なれどもかへりうれば人の諫をもちゐ今れてちからと徳のまた時節なくしてかへりあそありよくおもふ人もおりつ概をしるべし

第廿一　愛欲ハこゝろをまどはす

むかしさる人のいひしハされど宴楽のたのしみぞかしきはめて吾乃郷獅をとゞめり吾乃出身とこそ沢山獅子のからすどのは気をとりて合点をけずの角をとりし仙人は女にふれて通力をうしなひててり志賀寺の上人ハさらにうつりの心をそひこそおいしなれども宮の御息所に恋慕してゆきは大契りおちきえはてにし花山の法皇十せんの位をすてゆたんせいあるしふもの ともに中務といふ女房にゆかのたはむれ智恵才覚をうしなひ賢人鬼神とうはしおき人もたちまちつゆされしためしあり

評曰色欲の念慮ハまことのよりぞふかきもの也人や堯舜孔子周公のみな子あり聖賢とてしても愛欲を

といふ宮ずまに佛はのこる打これとのまし。むかし
その於ら欲にかゝつてなんをみだすとまつのことき
聖賢ハさしもなくはみださず世の常の人ハ於ら欲に
ふけるそのかみ命をうしなひんや後世はとりにゆる
いくり堕獄をまぬかれし其のほか三國にわたりて
すまもろずらくわが卿のむかし道命は師がゐ
がしき和泉式部の詞を鬼とかりあひこゝひせしが
なんとみずまずうりおもひなハ聖賢にまらし
くらみずし非道とゆらおひ命をうしなつるゝ
ともからハ於の若みの出羽山獄の畜生の
數に第して終る人へくまずろ人ハ統つししべし

第廿二　ゑ子は賣ること　の事ぞ中

むかしきく人のいへるハ唐宋といふ國に直ぞくりかき
ある者くへありいひけるハやその珠を其の中にみよ
てたからとせずそ子罕とやすゑ人へ進上せり子罕ハ受ん
して海ひよりて珠をくれけるんぞしりぞきければ
珠ハ珠ようにずに我ハ貪欲かしとも尋ぞぞハ賣
ともさう須我ハ足れくりなく貪ともおもへえこころを
ゆつく貪とするハ金銀珠玉をもつくるかたやらし
のぞひのあようらふ事みな海がものへありとて滾る
てやし給ふ

評曰珠玉と貪としるかぬよろこぶハみな海が為此うへ
ありとて除き柴をつけてよくゆるふ質し貪を
あらつくゑずよする八町人百姓なんどといふてぐひ

事也天下をまもる人ハ天下乃宝(ほう)とすなハちこれ大きの宝なり一国をまもる主ハ国中のまもりをみなこれ宝也なる也家をまもるにハ穀ふかくたくはへもつく積財(つミ)ハ人てさくともまた不義(ふぎ)なくして用ゆるにみな他人乃ためなりといへるなり唐斉(もろこしせい)乃宣王(せんわう)と魏(ぎ)の恵王(けいわう)と打まじへて田(かり)かりし郊(かう)といふ所にして行会(ゆきあひ)の下酒宴(しゆえん)乃うちに語りかハりて恵王(けいわう)代いはくさぞあまためづらしき宝(ほう)物どもおほくもちたまふらんとありしに宣王(せんわう)ハ我くにゝハさしてひとつももちたまハずといへバ恵王(けいわう)のたまハく我が国ハ斉よりハ小国(せうこく)なりといへども宝乃玉(たま)あり中にも径(わたり)一寸の玉ありて其ひかり(ひかり)ハ光とをす

車乃前後(ぜんご)十二輌(りやう)をてらして夜に炬(よう)をもちひずかほどの玉十まい(ぎ)もちたりいかん斉(せい)ハ大国也いかでか宝(ほう)物をもちたまハざるやと申されけれバ宣王(せんわう)こたへてよろこびて我が宝(ほう)とする物ハ恵王(けいわう)代かハれりまづそれ各別(くべつ)なり我が臣下に檀子(だんし)といふものありこれに南(なん)乃国ざかひをまもらしむるによくかためあへて楚国(そこく)よりあだをなさず又泗水(しすい)のほとり十二人代諸侯(しよかう)みな我になびけり又わが臣下に朌子(めんし)といふものありこれを高唐(かうたう)といふ所にをかされけれバ人みなよしみをむすびてよく仕へあり趙(でう)乃国よりいさゝかも侵さず又わが臣下に黔夫(けんぷ)といふ(りの)ものありこれを徐州(じよしう)の国ざかひをまもらしむるに燕(えん)の

国より又はをかさず、やう〳〵燕と趙と両国の民百姓みなわが方になつくもの十万餘家あり又わが臣下に種首といふものありこれに国中の盗人をふせがせしむるに盗人さらに一人もなし此四人の賢人をもつて侍るは光とほく千里を照す千里の国をてらすなんぞ十二乗の車をてらす玉のみならんやとのたまひければ恵王大に慙色ありて座をしりぞきてかへりけりといへりげにも金銀珠玉を宝とする事は小人のわざ也君子の宝にはあらず一国をたもつ人はよわかるべからず小人をしりぞけにちかし或人のいはく一国をもうしなふもとゐも金銀ゆへ

あくかゝるは古事にのみにて軍兵とも○き敵とふせくためよりしもんぐるゐありし其こ生死はやまず金銀はまきちらされてはつきる士卒はたすけにならずびく〳〵の事すしまのわざ又る籠城のときも金銀かねたくはへて士卒ともに○かまへしは女飯米籠城中なとこれをもよほしその中に善悪相伝の侍のかいづれも一人もたすけの絵をとりてさばみなゆしかせてかなふべよりいかにもくみずとしもよし只仁政と仁とし徳をうる人かゞらはそのいはくうらせば他国の士卒も招かるに集る理にて軍兵をかずしらずわよく天下一国一郡の主君みなよく〳〵分別あるべし

第廿三　剛ハ柔なるに負るといふ事

むかしゆしゆんといふ人のよめるうたにまてくゑ袖しまりたるとふく

中くまさるほどの力なく柳の枝ハ雪をれハせずけれども松枝などの類ハ雪におもきをつもりてまれまゝかく雪ふりつもるときれてゆるまわりきとあん雪ゆきの枝といふ類なのしく歯といふものハつよき故にかたなをもかたしとて深き故もなくくづるゝ又舌といふものハやはらかなるゆへに柔らかにしてかたくてくずよハきしさなれども人の口中にあれバ歯ハ殊にぐごきをゆるまじて舌ハ一頭のうちにゆちゆるぎ残ろともし又火といふも勢ひきびしくつよきにより〳〵消る

石山岩石なれども焼てハ灰となりなせども薪とハつかれず鐵しかすくみかたきにあへバきえ易し又水にあへバしづみても勢至ぬれバよハく紙一重ほどもつらぬかずつまるゆぞ易く又髪の毛一筋をもつくとほせどもさらに奈かしされども石万斛つミたる船を海にもうかべくよはき人又彼よわき時ハ大山をもあつる心鏡石をも尽すてつさなる人のゆへ心得ハ慈悲なくして義理つよく老をとがやまひあるとらずして同年にさへしく歌わかくんぎんにして情なく剛なる人ハ嗔ことしくてしこも庭にハ油断せず心ハたりき人おもしろくまた夷の大剛強悪乱の鬼武者一家をなれ

評曰此一段ハ昔もかくもんくんと百人ありかたもとなれぞ世ハ剛毅のものハ短慮所化坐山外の他力今

せるをもろこしのまた奴風文壇林乃ある不化(しうけ)の咄(はなし)
こまかハみなはよみとかまはりつ人々ハ文よむ
きはり人もようしずしなとてなるまぎもの出さ偏ぐ
生熟(なまじゆく)なるか中よ貝鰕魚(くわいゑびうを)のさびひハ骨(ほね)となりて
肉(にく)とゆふをしかもこのあるなかのうちにもつとも
楽(らく)しとうてずも肉なき此海もつきぬくまなく綾
とふ筆しらずこれ劉毅(りうぎ)をかりてはよくこ
ゆかりの由人乃海なりよとりしきはまつくへ此
よめいてよ海きなすく敵とまきもせくそびけや
もし唐(もろこし)乃韓非子(かんぴし)とふ人あり叔向(しゆくきやう)とふなり
むかしのく君をかゝへつきとと軟(やは)らかなるとぞれも
学(がく)さりのとはぶあんと叔向(しゆくきやう)こそへてうえくやぶ字

八才なみならぶ畫(ゑ)ハみなかちてされども古の法ありと
こゝろしらで畫(ゑ)を學(がく)しといひても言(こと)はさこれなく
此劉(りう)ハ柔(じう)なりとずといふくさなる感(かん)じはべりと
ある人さ海よとよ柔和(にうわ)なるをとものくわりへのきさ
ゆるるひとすさうの法今あるく劉毅(りうぎ)の弁(てい)なく
へうむいつく侯退(くんこく)いんぎん八よかやりくありと
こゆかりのちなさいみなせ乃ならつひとのあく馬鬼(ぐ)
慇懃(いんぎん)とつくら偏曲(くそよの)これよおさせくかまつり
劉毅(りうぎ)がくとらハ絶(ぜつ)よちらしと編纂(えんご)身みてさかり武士(ぶし)を
いの町人(まちびと)へおさへかんどの剃(てひやう)ちゑハかやりくるときゆかを
あくなるつひとさう遷人(やすびと)もうつり流(み)なさら也今も
田舎(とどぬるき)くこ山里乃人ハかどとうぎすといつり形し

ものゝひ興さめちかくあさき掛るれども人の聞わり
むつかしかるべきひとすこしの人もかゝても田夫野
人の事にさもそのそれども花車風流なくかつらふ
ものゝりはいまじ田夫野人のこゝろも聖賢の道とも
乃所はみえりさまと孔子ものまへりとかく此めし
つまんや孟子や曽参が物やかくれたる人もなかりくへ
武勇なかとばかりまりすへ名もしあやまつさき辞とかれし
常に匹夫のちらかりの血気の小勇ありて仁義は大勇
まりとも書にも逃らくへ事やわらかに人をもくゆみて
人をすみ屋て退す勢ともすゝ金石の如く命をも捨ん
もろ手に鳥毛のごとくするを大罰の名とやふまり
人弟安も碁と号して他念ともする人の中

むかしさる人のいはく、あ合碁とありその中に
もすぐれて碁をこのむといふ人の風情を見るにこそを
うけたる人碁をうちそめられば万の用事をもさしおき
後悔をもする事限り也何ぞ物をもすれば前後わすれしうせ
なるほどふかく後悔こそ何ともあきれはひわろそひみ
飲食物をもあそぶまでも腹立ておのゝくつく後悔こそぞ
その味をしらず或はしらずつよからいぬつかはもふうどう
ぐせしも苦きもわきまへまず只碁をいたりなくすきて
わぐみとかすとしまけなばなく聖人の訓に
耳かされたゞきつかふ便されども飲食をもされども
あふかひとしばしとはおゝ人掛るまくぬらすぐ
評曰囲碁は古堯王のつくりて其子丹朱に

さゝまく釣魚と煉ちりとしめて河図と表し
て盤ハ黒白の石を日月としこれを三百六十一
配して目となすそ九曜ありて九の星ありさるに
まづてみる軍陣戦攻のかたをとり演練し決
勝負をまつく活死となす誠にたゝ人聖人のわざ
遠ひく後世の人こゝろをなぐさむの戯となすにあらず
人はこゝろをまぎらし時をうつすのみ無念無想の
たまもつてたえず後悔なしいつまでもおくみ一つには
けふひ一目と論じ動されはいつも手ひどくよむこれ
みちこのなにわれもすや大学の語とのなく弟
まつはなくのかよしとみすなかし碁はさなされた
るべきとおりしたひとの人世にゆかし欲なりして

禍となりてかならずなりて悪とまのつきゞく嘲と
ならずまた人をそこなふ利欲あらそひのおこりもみなこれより
人まゝ碁をうちてよしなにしてまつてならずしてゆくこれにても
きけども食されどもわすれもりし魯の哀公孔子にいはく
くらりうつりて世にわすれものありしをきくとも
て他国にゆくとてわが妻をわすれてゆきたりと
そのとき孔子こたへてのたまはく妻と夫はそれなるの
別れをわすれたるもの理あり夏の桀王や殷の
紂王ハ我力をたのみてわすれたり戮なくして
賢臣をしりぞけ百姓をしひたげて己がひとりをよしとす
悪して婬乱にして科なき人をころし
悪逆をなし国をうしなひみづからびに命をうしなへり

これ様子をさすれはよろつ也よのなかハとかりさかの呉闕
平卵よりも卑きをみる利欲短慮のものにいたるかより失
ない子孫にわかをさすれて禍ありてあとの甚許の他会
おさくつらくられハ千百万倍のわざわいをまねくあり
人毎五葷と食する事よ野鰯蒜など食す
むかしの人のいひしハさかなよりよくさかなに絶
金の年よりものゝもらひうりハ此比鯉とらふ奥ニよう
よの中せわしいひてならぬれけさ様子年の一はとりてハ
大きい人はこの家の人もかゝる事ありて一下膳のとを前につれ
切てもてんらし部しと害せずその色よく弁すて当世は
何ともこの糟粕さまへ糟味噌大蒜はそても高家大
名の御料理なとはめつらしく是のはつかりてはやく

せんかんと欲せられてハ此の餘ある人とありてのらくえのもすちあ
きりようといふ町人のならひも銭のうへにてハいかさと
かしわさんかうすにおそれすのまあし桐佛を仕る
そのうみハかくおそろしと歎
許由のきよといふ奥のまりハ清まりて当にかえるの也
よろこひてハきよりのまゝよのハ大ありてより鰯
このしろ糟味噌なとはもよろしく何とよて時代
なりぬれハ食物も人の好むところになりて
みえさまり奥の手にふたりより食しものとなりてそれ
をよしとの後ハおもてにしてつけ倹約をとゝうかあるふ人ハ
大名にても鰯家代小魚をもかますて摘まさ戒ハ朝夕
清菜二種とかつ黒米の飯をめしまゐらしゃう

さてこの最明寺の時頼入道の足利左馬の許へおはしつるに一献にうちあはび二献にえび三献にかいもちひにてすましたまひてその外はなにもなく、さばかりやみし。利此へたと最明寺入道と申せし人の、かけて酒のさかなに肴なかりしに厨にゆきて棚をさぐりてのこりしに焼味噌の土器にすこしのこりたるをもとめてこゝろよくして酒のさかなにせられし事よ。まことに今の世にはかく驕奢をきはめらるゝ中にかく倹約とはしるべし。世にかくれなき一偏にこゝろえやうとみなるさきものは河豚なり。此魚の中にてもすぐれば大毒なれども人々このみすきてある今

公家武家のちかごろはやるわざ淡く料理をこのむとや。風味よろしきものといへども大毒とやいはれざらんや。雑毒なくばこひのうぎきめれば毒にはなよわしといふことなく、世の諺に云ふ毒のそへものにあはずといへり。さればいかなる物も穀はじき毒なきは莫なかりし。ものはなくてき事也。又は大蒜のすは臭穢をきらふべしきものなればいとはしみますべし。神前へ三日ばかりいみわり仏前にはいましむるは凡下大方の町家下子町人までも何としても雑餉にてよくす。世間のいふはきく人の風やうとこよく穢もののきゆるかひとのもめんずるなり

めしつかふて郎党若党の人は小姓侍なとゝひろくせうとかうかくゆかへく事もすくしこうひたげも主也主とそがりてやつる上ハゆかりし町人へゞござらうさきの世のまゝとみるゝことなまゝ侍中せらこそ侍とをひわしき侍中せずこそとありぞそのほかもなまさゆうのあひの方あまにせんとゆへりめすなしに町人へともをわりしらのづよく相伴せさせ雑談させしきうしめすすまわり毎日のごとしとかふすのやからもとも多りちとなげす足形をし此まで也軍法国政のまゝハ町人のしるべきにあらずせうの人みかたもちあまるハ世の笑ゆたまん町人のやうつらふ分中てゐもとあり

弟子云袖ぎりして肩わろすひとしきゝ人のいふらく下臈の知に昔瓢にもゑりえおはなしに升てひつぎ織なりしが何事にも皆肩衣なるも乗る人へとこひけるにふみもらし百曲おもふがおもず漢がほまで光武なる物がたりえなりしこんの由なり馬いり事ず人にまれもふじりひて諸貢田地七反乃みてひとあまがたりえなり又夜中叱ちやうまうち聴なりてやうの袖なかば何よもえあるまじよおうさきこそとりえなれ又画乃ほうが糸か罪りなんぐりのようかすく何ともえなほまうが白さしようとりえな主又愚鈍なる人ハ両直たれがとりえなりみるやくるゝ後りのハこゞろしきがとりえなり

評曰万物各(かく)ひとつの肩(とりえ)ハある物也大悪の人といへども菩薩(ぼさつ)の行(ぎやう)の善知識(ぜんぢしき)なり衆生なくハ佛(ほとけ)の大悲(ひ)なにゝよりてか發り給ふべきまことに漢(かん)の高祖(かうそ)ハ曲(くせ)ありて人をとらへのゝしる事蕭氏(そし)がいさめて天下物を生(しやう)ずる便(びん)ひとしからずその中材(ちうさい)以下(いか)これ徳(とく)あるときハこの病(へい)ありこれ病(へい)あるときハこの徳(とく)ありうるが故に罵(のゝし)る帝(てい)劉邦(りうはう)のいかなりずよくその不善(ふぜん)なるをいふべからず別(べつ)にこれ病(へい)ありてこれ徳(とく)なきときハ天下を棄(きさい)[illegible]ありといふ[illegible]よりて[illegible]物のさかりえき[illegible]何ぞ病(へい)があるなりわるき事のすぐ肩(とりえ)なき人ありて天下のすて物也次に君ハ仏(ぶつ)[illegible]佛(ぶつ)[illegible]ハ宗(そう)[illegible]ありといへども[illegible]ゆくへハ

こゝろしらぬ事ハさらにきゝすごす事に二様ありつゝ正智(しやうち)あるよりゆへことに分別才覚(さいかく)ハ人のうへにあるに利(り)ありて害(がい)なし邪智(じやち)よりゆへことに分別才覚ハ人のうへにあらず害(がい)をなすより外なし世智(せち)弁聴(べんぜつ)ともにみなこのうちぞものなり愚鈍(ぐどん)にして害(がい)なきものハよろしきものとあるものこそ愚(おろか)のこゝろざしさハかなはず害(くわい)を生(しやう)ぜず人にとらする事ありかつてそちうへともあんや

第廿七　父母孝(かう)の此世にハ様力を守(まも)る事

むかしある人あり言(こと)辭(じ)うるはしく大ぐひをせず養生(やうじやう)せんとして安(やす)く口(くち)ぐちにいふわる人ハとやかくいかにしてあくまでの老人(らうじん)のろうさにもあらず年よりひとのすゝめんときゝてゆるゝやうに唱(かきりて)うぐひすのいひつるやうやよわのまちかき人ハ孝(かう)

役めつとむるほどとみえたりされどもそこらの鍔（つば）ならば大ぐらひもせず養性（やうぜう）とこのみ無益（むやく）口はたゝかぬ様（やう）なれども人の中へいらく物は云事わきまへして弁説（べんぜつ）利口（りこう）の身のひろきほどもならずされば皆人の不當（ふたう）なりいらざる人の中にて物云ともすゝやあるべきとおどけるこゝろよく噂（うはさ）しもてはやされるにつけてもよしてころび出づして大かた世の中のまねをしてさて皆人の不當（ふたう）をそのまゝやりとげ見せしものまねにそなりしそのしわざはつらくふそくなきやうに心をかくべしこれ天のおのまゝにはならずやきもちやかれてもくるしからずさもあらばこれ世の中をさんざん喜（よろこ）ばしてそのうへ天下泰平の口ぐせとひらき部とそて今の世やうらやましき人へ我心（がしん）の得手（えて）をも

こよなきよと云されのふしまかけきとも喜ぶ人あればこそ此道の事しもしやうは家をうりわたしてもあけまゐるもそえ花のいる百千（もゝち）の鳥部よりしさわきばく人ろくなきず喜ぶといふとはしる世のまれは黒（くろ）ふしく野（の）の橋（はし）べのほとりの曙（あけぼの）かたちのそこはかなくきれ名（な）のりわくる又月夜のありく室（むろ）のすりくれとびらめとえて人（にん）民（みん）海さうけ暮とはさて初秋（しよしう）一葉（えふ）ちりうらしより野（の）べの虫の声さわのゆきくは兼の声もつゆすゞく月のひかりもてり渡さり恨みが秋は葛（くず）のうら風あすこそみ葉のしきは沙すゝをかひ世の人これと秋をゆどろくみかもすれば時節物もなくおどろしわすれしく万縁（げんえん）そえそれいふやの穀（かく）之ばむく暮向く人は邪山と

うづもるゝといへど形見をとゞまりたる書なりといへく
其文状の風雨霜雪日月星辰みなこれ天乃文章也
とされば古き言や錦のも
山かつみ春ともまつ香桂の戸をしめえぐつての彩の題を
五月蟬声送麦秋　一葉落時天下秋
僧乃あるく世するりもり拝吾月をみに海ともり附叙あるあきん
ひかえ其文状の移言わざくりでぞくへうくし言をもつらく
観もるいつ天ら情のうちかしても時節とのさらひ
やれて言まいのきく世をるちずやとやしされば皆人
うまいさもしとゝわりて目く孝行のつとかりつでくる上手
しづつに大ぐらひせぞやとしむそてくらぞくされば人とし
てうねさそうしく大ぐらひされば不慮のあやまちして

將命下被換す我身の上に錦の衣をまとうて父母の墓に遊行す
是は十二よもやぶり換ずる時は重き父母乃上に錦を被換へ
父母乃身命をかうむるといふとも子として身よりみ
かるしみをまはゞ父母のあへる次いそみむさあれば無用
のあやまちゆへ我身をやぶり換じてもみるしむちに
まる父母をもいとみてみるしの海千すの中不孝あるさきそれ
聖人乃よき衆中も身体髪膚を父母よりうけあへて毀ずり
換さるを孝行のはじめとするとゆへ明らけくしらう上
居しづつに大ぐらひさせあハ我身をそこのふに千するゆへなり
我身をそこなふむねにいまだ右孝行のいふりあらずや
とまされハ父子あへのたやうハうハ事もしよなんかるやら
はくうつくりかの書曰蒿性をこのむつされいかんぞ口

不養性なれハかならず病おこり病者なれバかの侍百姓町人までもそのはたらきかなはずしてそのはたらきかなはざれハ其家衰微破滅にいたるべししかのみならず父母のうれへ辛苦いふにおよバず其身病者なれハ命みじかし命みじかけれハ父母にさきだちて死してうらみをはかる次そのうへ死する節にのぞみて父母のなげきとなすこれひとへに不孝のいたり也ましてみづから養性をすれバ病ハなく息災也息災なれバをのれ〳〵がつとめよく学文をはげむ侍ハ弓忠功をはげむ百姓ハよく農作をつとめ職人ハよく細工をつとめ商人ハよく売買をつとむ右のごとくつとむれバ家とみはんえい全うして冨貴をえいよ〳〵さかへ冨貴をえハよろこびハ父母によくつかへ妻子をあいし兄弟親類他人まで

をめぐむにより父母ハよろこび心安く楽にくらし死して後までも代々繁昌して家のさかへそのうへ子孫まで昌めでたき事也是神仏聖人賢者のはからひにより天よりめぐみ給ふ所のすゑおさまりそのとむれむべなり思へバやその後ハともかくもつゞいて繁栄になり評曰論語にも天子の孝や四時をまもれ万物をよろしくとなすを孝文とおもへ一段とうとき事ハまず泰伯の翁に曾子わらハを病めして一生人にしてこれかハ父母にうけたる身なれバ父母全くして我ともに子また全うしてかへさんとて一生身のうちを傷まろならひ身体髪膚のうちにすこし永くとふしいつとくさいやうくその人痛つかるんやうもなまりけるし

よりわたくし一陣をもつてあやまりをしりて立居しづかに無口とききゝなくこれ君子の風あり養生はこのむところ年つもり病と本をさかりしつゐに命をたもくせんとすとも年には死生命ありとて死もとも生あるもこれ天命なり孔門にいる君子の業によるとて全くわり業つきて天命きはまりぬればいのちさらにつゐともめぐるゆゑ悪病なは命あり冉伯牛ハ癩病はうまれつき孔子をはじめとして命かぎりあり此人ありてこのやまひありしとものまつり顔淵ハ孔子の弟子にして徳行の頭にてありしが不幸短命にして死しよりひとりさ人代立居辞りまものいふことすくなく養性なりとても長年

四書よりの撰伝を学ぶ人よりこのむところすくなし遠ハすべて万物そのくらゐにしたがひこれを学ぶもの業を尊ぶの郭たる聖人も孔子の教の道をもつてをさむるにて立てゐまずして立身することはつきることなく人を伝へ年よりの人の盛りに至り柿たるは今の世までに此天然のならひ人ハ徳をやそのひとの日々にいよいよ天の理は言もまく真なりし無為にして万物そのめぐみをまち地天あかりの人を見るにつけてその節をとりあひに随ふとらへ年々その理にしたがふべし次に孝ハ大事めに立居しつかに大いなるひとせずとつ年々その理一端やうやう万代おやまもり孝養せずして父母よりまもる母親を孝と弟とうる年に不孝の科ありさらに悪く

孝(かう)なるかなこの身を保(たも)つ也この身を保つはすなはちみ
保(たも)ちけるにいはんや其(その)身(み)の血脈(けつみやく)をたやさずして其の
親の名は家(いへ)をつがんや此身は父母を保ちまつる
跡(せき)としてわが絶(た)えざらんはまたの孝(かう)の道(みち)に
いはずこの身をみだりに動(うご)かさず乱(みだり)を全(まつた)くす
ればわがまうけしもののそこなはれにいふぞいふべきか
理(り)にかなふ常(じやう)子(し)に従(したが)ふいはんやまた聖人の
まことのあそびより次(つぎ)に生まれ此身をむさぼる此所要(えう)也これ
いかで身をかはりけるに至りて身命(しんめい)ともをしむべき
すなはち城(しろ)の衛(まもり)のためにいのちをすてよ　慈悲(じひ)なり
此時に至りては第(ざ)の身を泰山(たいさん)のごとくに身命
のかろき事一毛(まう)よりもかろしとなさば華(ざ)を全ふす

ともがらわが身を父母の遺躰(ゐたい)なりとて死(し)をもつて家
をのがれ主君をもそむけちかひを不忠(ふちう)不孝(ふかう)の
科(とが)あるまゝ○つゝしむべき也次によく養性(やうじやう)すれハ病(やまひ)
なく寿(ことぶき)のほどあがりしゆすしとらす事養性の道也
をぬぐしからず申すも飲食(いんしよく)その節(せつ)をまもらず喉(のど)
鬱(うつ)その宜(よろしき)にあらずしひてはつるの○に丹田(たんでん)によくはなるぶ
耳(ざ)おくれ気(き)をはらずかくれひさえハ外感(げかん)内傷(ないしやう)此
うまれ元気(き)七情(じやう)によりてそこなひすなはち飲食作(めしさく)
商賈(しやうこ)ましてまた主君あるの身いかでかわがまゝに養(やう)
性(じやう)とはいふかんやいはんや富貴(ふうき)にしてその身に不養生(ふやうき)なる人
ハいのちのまゝに養性をあはれをせよとしてもかくハはまへ
あるかなきかの也まづこの書(しよ)をよくよくみて

ところその理ハやしなかしさ此かうるひたるて恣す
まゝ一偏なりとおもひがたし